

眼科

1. スタッフ（平成26年4月1日現在）

科 長（教 授） 川島 秀俊
 副 課 長（准 教 授） 小幡 博人
 外来医長（学内准教授） 牧野 伸二
 医 員（学内講師） 吉田 淳
 医 員（学内講師） 高橋 秀徳
 病院助教 佐藤 彩
 堀 こずえ
 大河原百合子
 シニアレジデント 6名
 糖尿病センター
 （教 授） 佐藤 幸裕

牧野 伸二
 吉田 淳
 高橋 秀徳
 佐藤 彩
 堀 こずえ
 大河原百合子

・指導医

日本眼科学会専門医指導医

川島 秀俊
 佐藤 幸裕
 小幡 博人
 牧野 伸二
 吉田 淳

2. 診療科の特徴

当院では、大学病院という3次医療機関である関係上、地域の医療施設と密接に連携体制をとり、急性期の治療を中心に診療を行っている。特に、専門外来（角膜、緑内障、ぶどう膜炎、網膜・硝子体、黄斑、眼循環、ロービジョン、斜視・弱視）を充実すべくスタッフ一同、常に最新の高度医療の導入に努力している。

診断面では、通常的眼科診療に必要な機器を完備しており、さらに光干渉断層計（OCT）、ICG眼底撮影（HRA II）、波面収差解析装置、前眼部解析装置、等々最新の診断機器を備えている。

治療面では、中央手術室に眼科専用手術室を2室設け、それぞれに最新の超音波水晶体乳化吸引術装置（インフィニティ）、硝子体装置（コンステレーション）を設置し対応している。また、平成12年度からはエキシマレーザー角膜装置を導入し、角膜屈折矯正手術やレーザー角膜切除手術を、加齢黄斑変性に対しては坑VEGF療法を積極的に行っている。

当院では、電子カルテシステムが導入されている。眼科においては、さらに眼科サブシステムを用いて、画像データや手術スケジュールの管理、各種病態の説明に使用しており、効率がよく、医療安全の面からも有益なシステムを構築している。

・施設認定

日本眼科学会専門医制度認定施設
 日本眼科学会専門医制度研修プログラム施行施設

・専門医

日本眼科学会専門医認定医
 川島 秀俊
 佐藤 幸裕
 小幡 博人

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	2,255人
再来患者数	33,932人
紹介率	96.3%

2) 入院患者数（病名別）

病 名	人数
白内障	707
網膜剥離	205
糖尿病網膜症	179
加齢黄斑変性	104
黄斑円孔	46
緑内障	15
斜視	28
網膜前膜	61
硝子体出血	35
角膜潰瘍	3
視神経炎	11
原田病	4
前房出血	2
眼球破裂	4
その他	126
合 計	1,530

3-1) 手術症例病名別件数

術式	人数
白内障手術（白内障手術のみ）	754
経強膜網膜剥離手術	83
硝子体手術（白内障同時手術含む）	459
緑内障手術（白内障同時手術含む）	15
斜視手術（小児・全麻）	34
角膜移植手術	7
レーザー光凝固	27
その他	46
小計	1,425
外来手術（レーザー含む）	
涙道手術	6
眼瞼手術	64
結膜（翼状片）	72
結膜（その他）	33
斜視手術	73
角膜手術	11
角膜PTK	3
レーザー光凝固	1,607
その他	50
小計	1,919
合計	3,344

毎週火曜日午後6時より

4. 事業計画・来年の目標等

大学病院の眼科の使命として、教育・研究・臨床の3つを行うことが要求されている。

教育は、学生教育のみならず、専門医を育てる必要がある。最新の医療技術を安全確実に提供できる眼科専門医を養成する。

医学や医療の発展のために、単に日常診療のみに流されることのないよう、常に新知見を得る努力を怠らないように心がける。

導入されている最新の医療機器を有効利用し、重症患者に対する質の高い医療を提供する。

3-2) 手術術式別件数・術後合併症数

該当なし

4) 化学療法症例・数

該当なし

5) 放射線療法症例・数

2例

6) 悪性腫瘍の疾患別・臨床進行期別治療成績

脂腺癌 5年生存率 100%

7) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

該当なし

8) その他の治療症例・数

該当なし

9) 主な処置・検査

蛍光眼底造影、超音波断層、光学干渉断層検査(OCT)、スキャニングレーザーオプタルモスコープ、インドシアニングリーン蛍光眼底撮影など

10) カンファランス症例

クリニカルカンファランス

毎週月曜日午後6時より

スライドカンファランス